



第40号 2011年2月1日 編集・発行：ゆうばり再生市民会議広報部

# 11.1.23 フォーラム 守れ！石炭博物館

主催：夕張の歴史と文化を学ぶ会



に・住民への奉仕活動を・学芸員ボランティア・無料開放・移動展示・移動教室・語り部活動・史跡見学会・慰霊碑見学会・研究発表会・協議会設置を

以上5人から15分ずつの提言の後、参加者を交えた討論となりました。

30人を超える参加者からは…

- 「市は夕張の歴史を軽んじているのではないのか」
- 「市民から博物館へ寄贈された品は他へ売られていないのか」
- 「寄贈したくても現在、受け取る窓口がない」
- 「親子三代炭鉱で働いた。語り部として活動する場がほしい」

- 「三菱の閉山までいた。博物館の展示はほんの一部。世界一の博物館にするために、協力をしたい」
  - 「博物館について協議しあう会を発足させるべき」
  - 「4年待つてようやくこういう場ができた」
- などの発言がありました。

今後の活動として、3月27日(日)に『炭鉱語り部の話をきく会』、5月中旬に『慰霊碑見学会』を予定しています。

ゆうばり再生市民会議 2月の運営委員会

2月18日(金) 18:30

～市民研修センター1F

これからの「ゆうばり再生市民会議」について話し合います。

運営委員のみなさん、ぜひお集まりください！

…建設から30年、老朽化が進み危機的状況待たなしのわが石炭博物館。その存続と活性のために、わたしたち市民は何ができて、できないのか。

いま、夕張の過去と現在を見つめ、そして明日を考える者たちが集って、『守れ！石炭博物館』のテーマで、フォーラムを開催しました。

提言者からは…

- 1、田巻松雄さん(宇都宮大学教授・社会学博士、清水沢生まれ)～財政問題からみた「石炭博物館」～  
・「協働」の危うさ・市民の役割・市民運動の提起
- 2、熊谷隆文さん(前石炭博物館館長、清水沢在住)～前館長からみた「石炭博物館」～  
・学芸員はいらないの？・宝の山・観光社員・議会もOK？・本物に驚く来館者・次世代へ引き継ぐ財産・教育施設へ

- 3、福本昭男さん(元市議会事務局長、日本昆虫学会会員、沼ノ沢在住)～元市職員からみた「石炭博物館」～  
・資料・研究紀要は宝、石炭博物館では皆無・自然史博物館の役割も・マネジメントができる博物館長や学芸員は必須・地域の人のため場

- 4、伊藤恵美さん(夕張の歴史と文化を学ぶ会幹事、鹿ノ谷在住)～一市民からみた「石炭博物館」～  
「救護隊で最後の一人をあげてくる夫を寝ずに待っていた…」・事故の悲しみ、刻々と刻まれてきた、命にかかわる重い歴史をしっかりと残すことが必要

- 5、矢野牧夫さん(元夕張市教委指導主事、北海道開拓記念館学芸部長、江別在住)～「石炭博物館」いま、何が必要か～…博物館が地域の課題を取り上げるなかで(多彩な学習活動を通して)博物館もまた大きく変容する…博物館条例へ・教育委員会所管